

し十数年勤続し後獨立開業す。今尙木別の關係を持続す。性溫和にして經營振り地味なり。

苗井金治郎氏

京都市寺町三條南

氏は明治八二年月二十二日滋賀縣野洲郡中里村に生る。新右洋服卸小賣商なり。

明治三十年市内寺町三條上處に於て開業し後ち現所に移る高等既成品を主とし九州及三丹州を重なる得意とし店賣をもなす。場處柄として同業者軒を連ね自然競争の傾向を生ずるは勢の免れざる處此の間に處し氏は品質の優良と薄利主義を主持し努力精勵自家の地歩を保持し商勢同町内一流の班に在りて順調に進展しつゝあるものゝ如し氏は堅忍誠實にして眞宗信者にして依仰心厚し。

村田堂洋服店

京都市寺町御池上



店主長屋芳治郎氏は明治九年一月を以て岐阜縣稲葉郡木田村に生る。洋服小賣商なり。

明治三十一年市内寺町九太町下處に於て開業し後現所に移り村田堂松苗商店を繼承せしものなり。村田堂は當時寺町九太町下處に支店を有し主人は現本店を當主長屋氏は支店を經營せしが後ち主人歿後長屋氏は其の後を繼ぎ先代の營業振其のまゝを繼ぎ學生服を主とし普通の注文にも應ず村田堂は其前身

立開業し居るもの同町に二三人あり竹中仙松、内藤熊次郎山崎省造等なり。

村田孝吉氏

京都市四條小橋東詰

氏は明治七年四月九日を以て京都に生る。洋服小賣商なり。

明治三十九年現業を開く元來氏は煙管屋の老舗なり。現店舗の西隣りは即ち氏の本宅にして煙管店なり。洋服は副業たるに過ぎず従業員三人を使用し堅實味の營業をなす。

村田彌吉氏

加佐郡舞鶴町

を千竹堂と稱し京都市最右の洋服店なり。又長屋氏は元歩兵十九聯隊に入營せし事ありて博覽會、共進會等に於て受賞數次快活の性なり。店員六人徒弟職工等十餘名を使用し京都洋服商組合の會計主任たり。同店は店員及職工を以て組織せる長生會なるものありて毎月一回精神的及技術上の會話をなし又時に修養の目的を以て遠足を催す。其の日時は長屋氏の母堂の忌日と定む。店内和氣充ち主従の關係恰も親子の情ありて床し。

氏は明治元年三月當町に生る。洋服小賣商なり。

京都市麴町富士見町土井洋服店に於て五年間修行し明

せ行ふ。前途有望の狀あり。

宇野福三郎氏

京都市二條河原町東